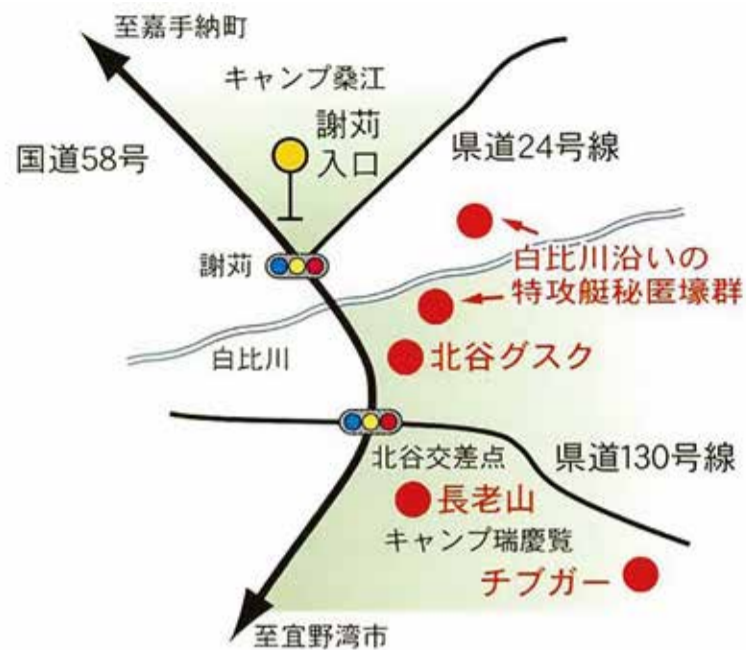


白比川沿いの特攻艇秘匿壕群



所在地：北谷町字大村374・363・357番1(キャンプ瑞慶覧内)・吉原988番・1008番

立地(標高)：丘陵(約20m)

形態：人工壕

種目：秘匿壕

現状：壕は崩落している部分がある

保存状況：原野に放置されている

築造者：海上挺進基地第29大隊

築造年月日：1944年12月以降

戦時中の使用状況：特攻艇秘匿壕

主な遺構：秘匿壕

米軍の上陸が想定された地域には、陸軍の特攻艇部隊が配置された。沖縄には、慶良間に海上挺進第25戦隊、与那原に第27戦隊、港川に第28戦隊、そして北谷に第29戦隊が配備される予定だった。海上挺進第29戦隊は、1945年1月沖縄へ向かったが、輸送船団は敵の攻撃を受け戦隊主力は奄美大島で立ち往生した。第1中隊と第2中隊の一部が到着したが、保有する特攻艇は約20隻に過ぎなかったという。

第29戦隊の配備に先だって、基地建設のための部隊が配置されることとなった。特攻艇の基地建設部隊である海上挺進基地第29大隊は広島で創設され、1944年の12月5日に白比川沿いに進駐した。北玉国民学校や民家に分宿した部隊には応召兵が多かったため、住民からは「タンメー(おじさん)部隊」と呼ばれた。このとき、村内からも約200名あまりが防衛隊として編入され、昼夜兼行の秘匿壕づくりが行われている。白比川を挟んで両側に30～40本の秘匿壕がつくられたという。壕掘りを行っている。壕は高さが約2m、幅は約3mで、奥行きは壕によって異なるが、艇を2隻縦に並べて格納できるほどであった。

現存する壕の中の1つは12mの奥行きがある。(丸印は全幅1.8m、全長5.6m)川までは、枕木に線路を敷いていたようである。白比川沿いには、7基の壕が残っており、その中の1基が現在、墓として転用されている。

1945年3月29日夜から30日朝にかけて中川中尉以下17名が出撃し慶良間方面の米船団に向けて攻撃した。全艇未帰還となったが、1名だけは生還した。



壕の残る丘



秘匿壕内部



慶良間列島に配備された特攻艇